

打楽器の味わい豊かに

札幌のマリンバ奏者・肥田野さん

講演と 演奏会
精力的活動も紹介

弘前

2013年まで弘前市を拠点に国内外の音楽家と活動したマリンバ奏者の肥田野恵里さん（札幌市）による講演と演奏会「弘前と世界をつなぐ音楽の絆」マリンバと打楽器アンサンブルに魅せられて」（放送大学青森学習センター主催）が14日、弘前大学創立50周年記念会館で開かれた。肥田野さんの精力的な活動が紹介された講演と打

楽器の魅力が詰まった演奏に、来場者約100人は盛大な拍手を送った。

肥田野さんは札幌市出身。北海道教育大学特設音楽課程、東京芸術大学で打楽器を学んだ。肥田野さんは当時の記憶を「打楽器のオリジナル曲を知らなかった頃はクラシックを自分なりに演奏していたが、打楽器のための曲ではないので、どこかひなしかった」と振り返り、「芸大に入ってから、打楽器のための曲



を多く知り、自信が付いた」と懐かしんだ。
1979年、夫の転勤で弘前市に転居。同年にパーカッショングループ「ファールサ」を結成した。ファール

サは市内での定期公演などを中心に活動したほか、デンマークや韓国、米国での公演も果たした。講演では海外公演などの映像を紹介。音楽文化を通じた国際交流を楽しむ肥田野さんの姿が映し出された。
講演後、肥田野さんとファールサのメンバー、ピアノ奏者浅野清さんが、アイランド民謡や行進曲、肥田野さんのオリジナル曲などを披露し、打楽器アンサンブルの味わいを豊かに表現した。（高杉洋平）